

私の目に映った佐伯史談会の誇り

上 杉 清 喜

(会員・佐伯市西上浦)

其の一

先年、清田先生のお伴をして、碓干の野々下見さん宅の墓所の採拓の御手伝い（手伝いというより見学）に向いた。何もかも初めての事とて総てが興味深く、その芸の美事さに舌を巻きましたが、その美事な出来栄を支えている諸道具に之亦少からず感心しました。各小道具を詳らかに覚えていませんが、特殊な作業の為、特殊な道具をのみ使うのかと思っていました。家庭で不要になったもの、廃品を上手にとり入れたもの等々で、結構その本来の目的を達しているのをかいまみて、工夫次第ではかくも立派に目的が達成出来るのかと、只々恐れ入って拝見しました。特殊な仕事なので、すべてその方の専門の道具をしつらえていて当然であるのに、物を活

かして使う無駄なものは一切買わない、手持ちの物を最大限に利用する。そして、出来上った作品の何とすばらしかった事。先生の憎たらしいまでの着想に只々頭の下がる思いでした。

その後、あのような御寄附！一切の無駄を切りつめて、而も必要とあらば惜しまずに投入する。何とすがすがしい事か。先生のお人柄が惚ばれてなりませんでした。

其の二

塩月先生の前歴は詳細に知る由もありませんでしたが、先般御発表の台湾旅行で、やっとその昔を知ることが出来ました。戦後四十年嘗ての教え子から、而も今では異邦の人から、かくも温かい御招待を受けられたとの事。人によっては新聞種にしたい所であろうに。

伏せて語らず、紙面の穴埋めに用いてようやくその一端を伺い知ることが出来ました。いともつゝまじやかに、しゆ而も淡々と発表しておられます。之亦何ともすがすがしい清涼剤ではありませんか。古き歴史を訪ねることもさることながら、四十年のそのかみ、日台師弟の生きた新しい歴史の一頁を今改めて知り、心ほのぼのと温まる思いがしたのは私一人ではなかった事と思ひます。

其の三

扇の要たなほに高木会長を、その左右にこの両先生を配して、羽柴幹事亡きあと微動だにすることなく、日進月歩の一途をたどっている我が佐伯史談会、県下に其の名をうたわれているのもむべるかなと、己の会に対する非協力は棚上げにしても何とも嬉しい。

その会誌を「毎号毎号労をいとわず運んで下さる人、西八幡地区は比較的会員が少なく、為に両地区を合せて一括配布してくれている人、それは誰あるう羽木衛守氏その人です。お年であるのに自転車ですもいつも変わらぬ温容で届けてくれます。「なあに仕事がないからこのくらい」と云って下さるが仲々出来ることではあり

ません。そして、史談会の諸行事等には進んで地区の代表として務めて下さっています。有難いことです。他地区にも第二、第三の羽木さんが居られることでしょう。史談会を支える大きな大きな土台の役をして下さっています。柱たぢ丈太くても土台がもろければ所詮せん家は長もちしないでありましょう。

雑詠

岩 田 トヨ子

(会員・佐伯市長良)

北風はきびしく吹けどどじょう豆今もさかりと実るたくましき

佐賀関東洋一の煙突も煙をはかず淋しかりける

別府湾波静かにて見はるかすかなたこなたに船の行く見ゆ

観光客の声にぎやかな金山に昔をしのび感慨にふける